

1 単元名 ネット型ゲーム 「テニピン」につなげる ボールゲーム「ボール打ちゲーム」

2 単元の目標

- ボールを打つ基本的技能を身に付けるとともに、ボールを操作できる位置に体を移動する動きによって易しいゲームができるようにする。(知識・技能)
- 片手で用具を使って強さや方向を変えて打った工夫を、言葉や動作を用いて友達に伝えることができるようにする。(思考力, 判断力, 表現力等)
- ゲームに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力, 人間性等)

3 単元計画

時	1	2	3～5	6～8
ねらい	○キャッチボールなどを通して、ボール操作のイメージをもつ。	○ラケットを持ってのボール操作を経験し、ゲームに生かす。	○壁あてゲーム・キャッチゲーム・ラリーゲーム(2種類)を通して、狙ったところにボールを打ったり、落下点に素早く入ったりできるようにする。 ○強さや方向を変えて打った自分の工夫を、友達に言葉や動作で伝える。	○ラリーゲームを通して、狙ったところにボールを打つ、落下点を予想して移動できるようにする。 ○規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりできるようにする。
学習活動	○ボールと仲良くなる ・ボール手叩きキャッチ ・バウンドボール	○ラケットを持って(1人で) ・ボールつき ・表と裏でボールつき ・ボール飛ばし ○ラケットを持って(2人で) ・ラリーゲーム	○壁あてゲーム ・壁に向かって打つ。 ・ワンバウンドかツーバウンドで返す。 ・壁までの距離を工夫する。 ○キャッチゲーム ・相手の取りやすいところを狙って高さや強さを工夫して打つ。 ・落下点に素早く入って、逆さまにしたコーンでキャッチする。 ○ラリーゲーム①② ・1対1でラリーを続ける。 ・ランダムに置かれたフープの中にボールが落ちないように狙ってラリーを続ける。	○ラリーゲーム ・2対2に分かれ、コーンバーをはさんでラリーを続ける。 ・攻守の区別なく、できるだけ長くラリーが続くようにする。 ・狙ったところに打つ、ボールの落下点を予想して動くことのポイントを出し合い、全体で共有する。

#### 4 授業の実際

ボール操作に個人差が見られるため、体育館を4つの場に分けて、時間を区切ってローテーションをしながらボールに慣れる活動を多く取り入れた。

壁あてゲームでは、壁に向かって一人でワンバウンドかツーバウンドの間に再び打つことを繰り返し、素早く落下点に入ったり、高さや強さを工夫したりして長く打ち続けられるようにした。

キャッチゲームではペアを作り、一人がボールを打ち、もう一人が落下点を予想して逆さまにしたコーンでキャッチするようにした。

ラリーゲーム①では、コーンバーをはさんで1対1で向かい合い、相手を取りやすいところにボールを打つことを意識しながらできるだけ長くラリーが続くようにした。

ラリーゲーム②では、コート内にランダムにフープをいくつか置き、フープの中にボールが落下しないように打ち方を工夫しながら長く続けるようにした。

最後には、2対2に分かれたラリーゲームを行った。1対1と同様に、ラリーゲーム①⇒ラリーゲーム②と発展的に行った。



壁あてゲーム



キャッチゲーム



2人でラリーゲーム



4人でラリーゲーム

#### 5 成果 (○) と課題 (△)

○用具を使ってボールを打つという活動が新鮮で、子ども達の意欲が高く、楽しく活動することができた。

○中学年の「テニピン」に向けて、テニピンボールと仲良くなることや、ラケットの基本的な動きなどを知ることができた。

○作戦タイムをゲーム中に取ったり、振り返りの時間を設けたりすることで、見つけた工夫を言葉や動作などで伝え合うことができた。

△本校は、3クラスか2クラスの合同体育で実施しているため、常に50人～80人弱の人数で取り組んだ。ボールは60個程度あったため、1～2人に1つはボールがあったが、運動する場所が狭くなり、十分な運動量の確保ができなかった。